

第 197 回 企業経営動向調査

調査要領

- (1) 調査対象企業社数 466 社 (回答企業社数 437 社、回答率 93.7%)
- (2) 調査時点 令和 6 年 6 月上旬～ 6 月下旬
- (3) 調査対象期間 実績：令和 6 年 4 - 6 月期
見通し：令和 6 年 7 - 9 月期

(注) 本文中にある「D. I. 値」は「Diffusion Index」の略で、企業の業況判断等を指標化したものである。算式は有効回答企業社数の合計を 100%として「良い」「増加」「上昇」などとする企業の割合 (%) から、「悪い」「減少」「下落」などとする企業の割合 (%) を差し引いた数値である。

概況

1. 令和 6 年 4 - 6 月期の「全産業」の業況判断 D.I. (「良い」 - 「悪い」) は、+12 と前回調査+11 から 1 ポイント上昇した。令和 6 年 7 - 9 月期の見通しは、+17 となっている。

2. 業種別では、「製造業」の業況判断 D.I.は、+7 と前回調査+2 から 5 ポイント上昇した。令和 6 年 7 - 9 月期の見通しは、+15 となっている。

「非製造業」の業況判断 D.I.は、+17 と前回調査+20 から 3 ポイント低下した。令和 6 年 7 - 9 月期の見通しは、+21 となっている。

(表 1、図 1)

3. 各種判断項目では、「売上・受注・生産」D.I.は、+4 と前回調査+1 から「増加した」超幅が 3 ポイント拡大した。令和 6 年 7 - 9 月期の見通しは、+12 と「増加する」超で推移する見通しとなっている。

「販売価格」D.I.は、+31 と前回調査+28 から「上昇した」超幅が 3 ポイント拡大し、「仕入価格」D.I.は、+56 と前回調査+51 から「上昇した」超幅が 5 ポイント拡大した。その結果、「採算」D. I.は、▲19 と前回調査▲17 から「悪化した」超幅が 2 ポイント拡大した。

1 業況判断

(1) 群馬地区

・調査対象企業社数 258 社 (回答企業社数 239 社、回答率 92.6%)

- ① 令和6年4-6月期の「全産業」業況判断 D.I. (「良い」 - 「悪い」) は、+13 と前回調査+12 から 1 ポイント上昇した。令和6年7-9月期の見通しは、+20 となっている。
- ② 業種別では、「製造業」の業況判断 D.I.は、+7 と前回調査+4 から 3 ポイント上昇した。「非製造業」の業況判断 D.I.は、+19 と前回調査+21 から 2 ポイント低下した。製造業では、輸送用機械が一部メーカーの生産停止の影響等が緩和し回復が見られた。非製造業では、すべての業種がプラスを維持し業況の持ち直しの動きが続いている。

具体的に見ると、「製造業」では、食料品+4、金属製品+4、一般機械+21、輸送用機械+7 その他製造+5 がプラスとなった。「非製造業」は、建設+6、卸売+37、小売+35、サービス+9 がプラスとなった。令和6年7-9月期の業況判断見通し D.I.は、「製造業」は+17、「非製造業」は+24 となっている。

(表 2、図 2)

(2) 埼玉地区

・調査対象企業社数 181 社 (回答企業社数 172 社、回答率 95.0%)

- ① 令和6年4-6月期の「全産業」の業況判断 D.I. (「良い」 - 「悪い」) は、+13 と前回調査+9 から 4 ポイント上昇した。令和6年7-9月期の見通しは、+18 となっている。
- ② 業種別では、「製造業」の業況判断 D.I.は、+11 と前回調査+1 から 10 ポイント上昇した。「非製造業」の業況判断 D.I.は、+14 と前回調査+15 から 1 ポイント低下した。製造業では、輸送用機械が一部メーカーの生産停止の影響等が緩和し回復が見られた。非製造業では、すべての業種がプラスを維持し業況の持ち直しの動きが続いている。

具体的に見ると、「製造業」では、輸送用機械が±0、その他製造+27 がプラスとなり、金属製品▲7、一般機械▲10 がマイナスとなった。「非製造業」は、建設+27、卸売+6、小売+20、サービス+9 がプラスとなった。

令和6年7-9月期の業況判断見通し D.I.は、「製造業」は+17、「非製造業」は+19 となっている。

(表 3、図 3)

2 売上・受注・生産

令和6年4-6月期の「全産業」の売上・受注・生産 D.I.（「増加した」-「減少した」）は、+4 と前回調査+1 から「増加した」超幅が3ポイント拡大した。業種別では「製造業」は▲3 と前回調査▲12 から「減少した」超幅が9ポイント縮小し、「非製造業」は+11 と前回調査+13 から「増加した」超幅が2ポイント縮小した。

令和6年7-9月期の「全産業」の売上・受注・生産見通し D.I.は、+12 と「増加する」超で推移する見通しとなっている。（図4）

3 資金繰り

令和6年4-6月期の「全産業」の資金繰り D.I.（「良化した」-「悪化した」）は、▲8 と前回調査▲6 から「悪化した」超幅が2ポイント拡大した。業種別では、「製造業」は▲11 と前回調査▲12 から「悪化した」超幅が1ポイント縮小し、「非製造業」は▲5 と前回調査+1 から「悪化した」超に転じた。

令和6年7-9月期の「全産業」の資金繰り見通し D.I.は、▲5 と「悪化する」超で推移する見通しとなっている。（図5）

4 販売価格

令和6年4-6月期の「全産業」の販売価格 D.I.（「上昇した」-「低下した」）は、+31 と前回調査+28 から「上昇した」超幅が3ポイント拡大した。業種別では、「製造業」は+29 と前回調査+26 から「上昇した」超幅が3ポイント拡大し、「非製造業」は+34 と前回調査+31 から「上昇した」超幅が3ポイント拡大した。

令和6年7-9月期の「全産業」の販売価格見通し D.I.は、+25 と「上昇する」超で推移する見通しとなっている。（図6）

5 仕入価格

令和6年4-6月期の「全産業」の仕入価格 D.I.（「上昇した」-「下落した」）は、+56 と前回調査+51 から「上昇した」超幅が5ポイント拡大した。業種別では、「製造業」は+57 と前回調査+48 から「上昇した」超幅が9ポイント拡大し、「非製造業」は+56 と前回調査+54 から「上昇した」超幅が2ポイント拡大した。

令和6年7-9月期の「全産業」の仕入価格見通し D.I.は+43 と「上昇する」超で推移する見通しとなっている。（図7）

6 採算

令和6年4-6月期の「全産業」の採算 D.I.（「良化した」-「悪化した」）は、▲19 と前回調査▲17 から「悪化した」超幅が2ポイント拡大した。業種別では、「製造業」は▲19 と前回調査から変わらず、「非製造業」は▲19 と前回調査▲14 から「悪化した」超幅が5ポイント拡大した。

令和6年7-9月期の「全産業」の採算見通し D.I.は、▲12 と「悪化する」超で推移する見通しとなっている。（図8）

7 在 庫・在庫水準

令和6年4-6月期の「全産業」の在庫 D.I.（「増加した」-「減少した」）は、+3 と前回調査+4 から「増加した」超幅が1ポイント縮小した。令和6年7-9月期の「全産業」の在庫見通し D.I.は、+2 と「増加する」超で推移する見通しとなっている。（図9）

令和6年4-6月期の「全産業」の在庫水準 D.I.（「過剰」-「不足」）は、+3 と前回調査+7 から4ポイント低下した。令和6年7-9月期の「全産業」の在庫水準見通し D.I.は、+2 となっている。（図12）

8 雇 用 人 員

令和6年4-6月期の「全産業」の雇用人員 D.I.（「過剰」-「不足」）は、▲24 と前回調査▲27 から3ポイント上昇した。業種別では、「製造業」は▲17 と前回調査▲21 から4ポイント上昇し、「非製造業」は▲32 と前回調査▲35 から3ポイント上昇した。

令和6年7-9月期の「全産業」の雇用人員見通し D.I.は、▲26 となっている。（図10）

9 生 産・営業用設備

令和6年4-6月期の「全産業」の生産・営業用設備 D.I.（「過剰」-「不足」）は、▲6 と前回調査▲7 から1ポイント上昇した。業種別では、「製造業」は▲7 と前回調査▲7 から変わらず、「非製造業」は▲5 と前回調査▲6 から1ポイント上昇した。

令和6年7-9月期の「全産業」の生産・営業用設備見通し D.I.は、▲6 となっている。（図11）

10 当 面 の 経 営 上 の 課 題

「製造業」における当面の経営上の課題について、対象企業の64.3%が回答した「原材料高」がトップとなった。2位は「売上・受注不振」で37.1%となり、3位は「求人難」で27.1%となった。

「非製造業」では、対象企業の50.0%が回答した「原材料高」がトップとなった。2位は「人材育成」で38.9%となり、3位は「求人難」で37.0%となった。

製造業・非製造業ともに円安による輸入物価の上昇等が影響し、「原材料高」を課題とする企業が増加している。非製造業では「求人難」や「人件費高騰」は課題として定着しており、社内での「人材育成」にシフトしてきている状況がうかがえる。（図13,14）

表1 業況判断

全体	5年			6年		
	4-6月実績	7-9月実績	10-12月実績	1-3月実績	4-6月実績	7-9月見通し
食料品	18	25	11	17	13	27
金属製品	▲ 14	5	5	7	▲ 2	15
一般機械	▲ 11	▲ 7	20	19	8	8
電気機械	30	10	30	▲ 10	9	45
輸送用機械	▲ 11	7	26	▲ 23	7	13
その他製造	10	▲ 5	3	3	12	5
製造業計	0	4	14	2	7	15
建設	19	24	25	16	14	21
不動産	34	33	20	20	▲ 16	0
卸売	25	28	29	22	25	27
小売	14	15	16	28	29	26
サービス	17	32	25	17	10	17
非製造業計	19	25	23	20	17	21
全産業計	9	15	19	11	12	17

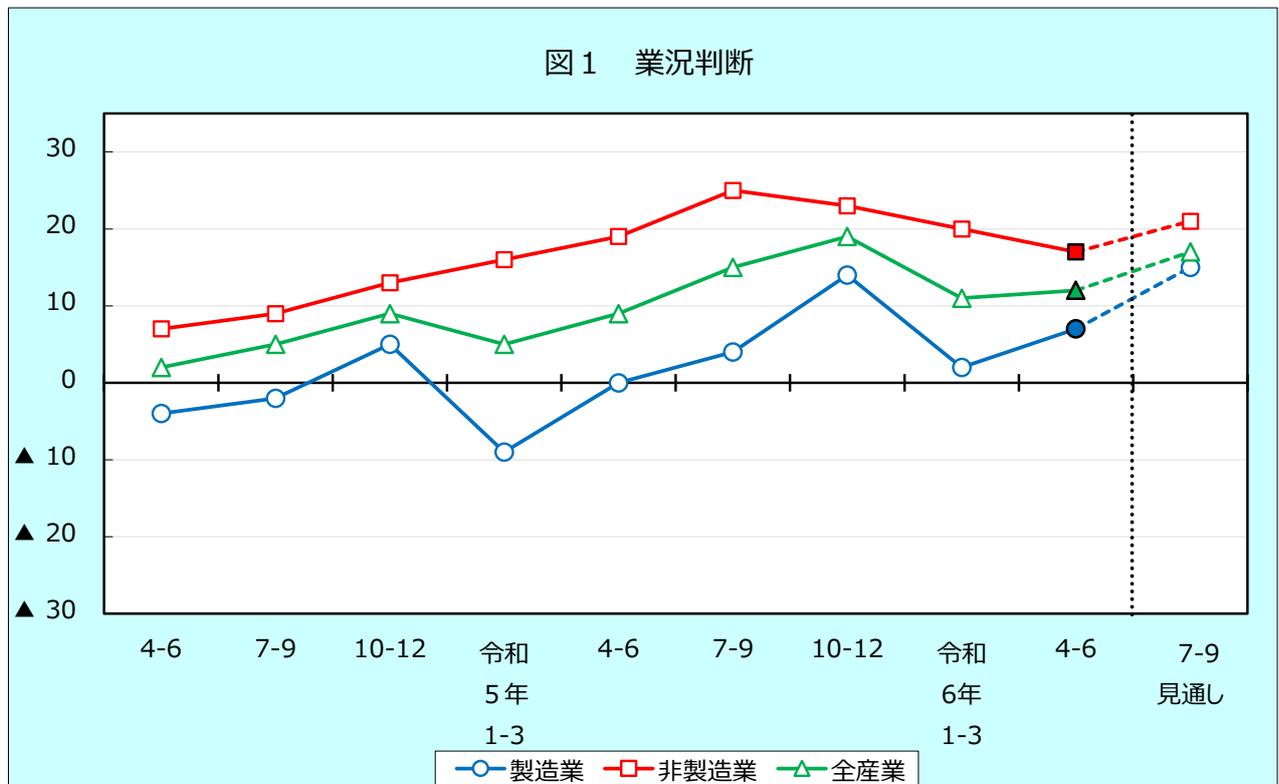


表2 業況判断

群馬県	5年			6年		
	4-6月 実績	7-9月 実績	10-12月 実績	1-3月 実績	4-6月 実績	7-9月 見通し
食料品	27	17	4	4	4	26
金属製品	▲ 19	▲ 5	8	16	4	23
一般機械	7	0	28	20	21	7
輸送用機械	▲ 9	9	47	▲ 26	7	12
その他製造	18	0	9	6	5	▲ 5
製造業計	3	5	21	4	7	17
建設	13	20	10	3	6	15
卸売	25	35	21	22	37	36
小売	11	19	17	38	35	30
サービス	18	47	27	20	9	21
非製造業計	15	29	19	21	19	24
全産業計	9	18	20	12	13	20

図2 群馬県・業況判断

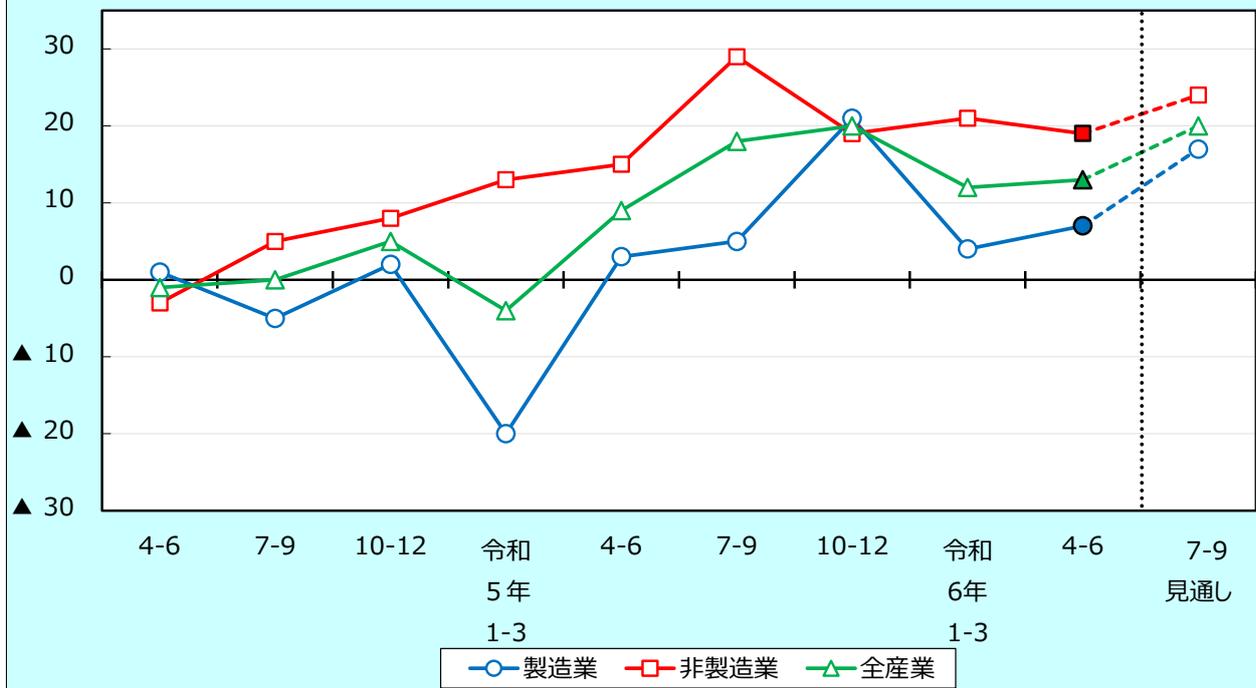


表3 業況判断

埼玉県	5年			6年		
	4-6月 実績	7-9月 実績	10-12月 実績	1-3月 実績	4-6月 実績	7-9月 見通し
金属製品	▲ 14	14	▲ 16	0	▲ 7	7
一般機械	▲ 40	▲ 22	11	10	▲ 10	10
輸送用機械	▲ 22	▲ 6	▲ 6	▲ 27	0	17
その他製造	10	▲ 5	5	9	27	23
製造業計	▲ 7	4	3	1	11	17
建設	21	30	36	30	27	30
卸売	24	12	31	6	6	12
小売	21	7	14	7	20	20
サービス	17	13	21	12	9	13
非製造業計	21	19	26	15	14	19
全産業計	8	12	15	9	13	18

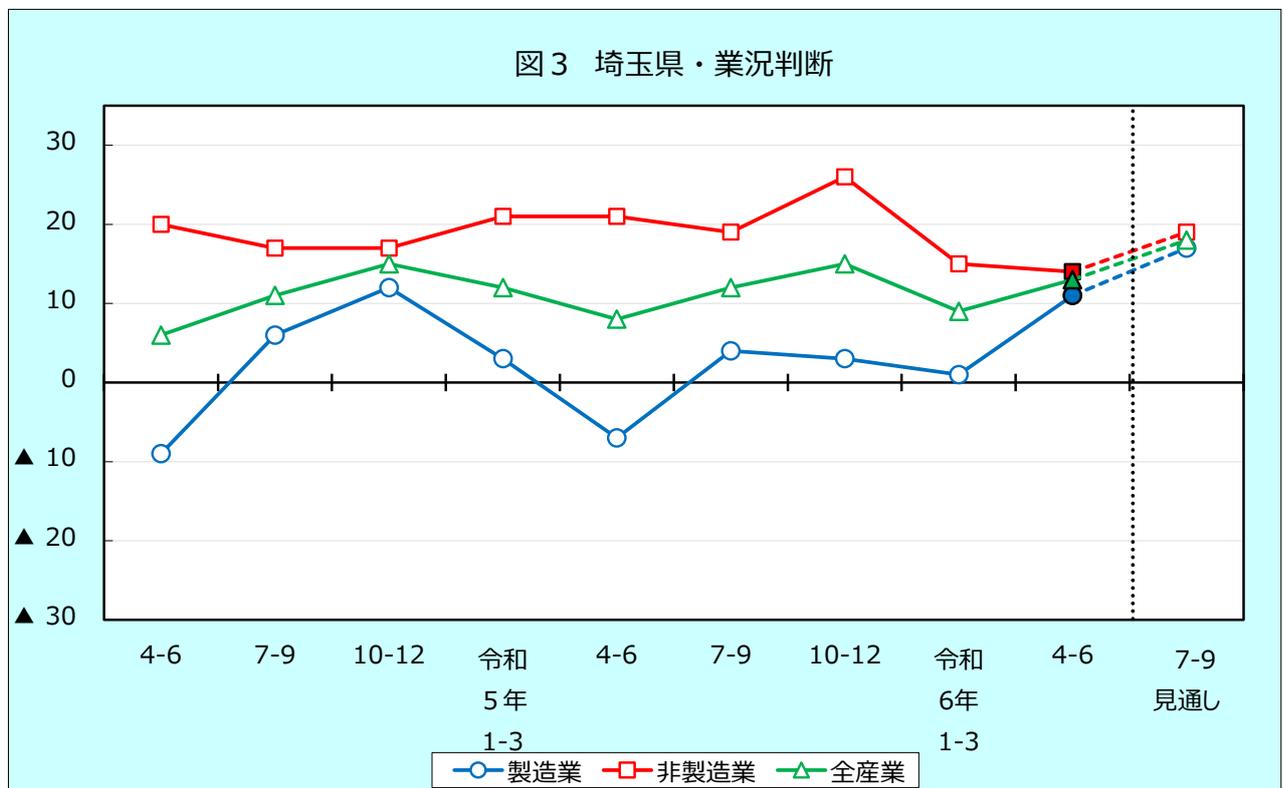


図 4

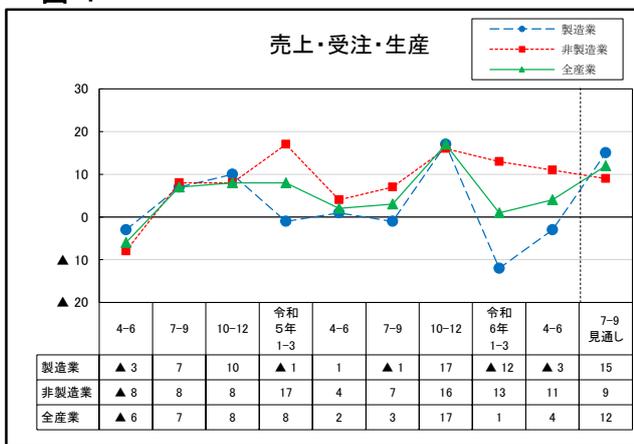


図 5

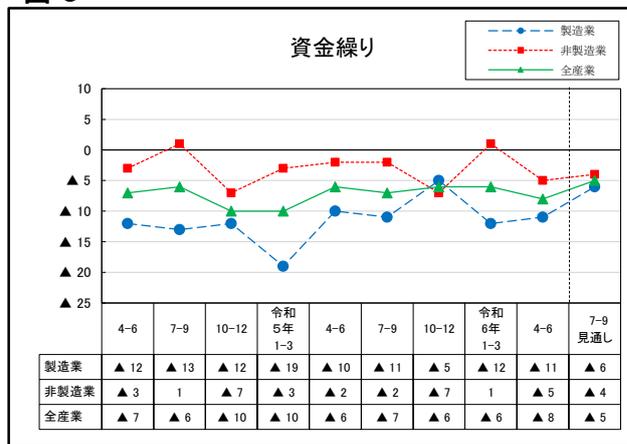


図 6

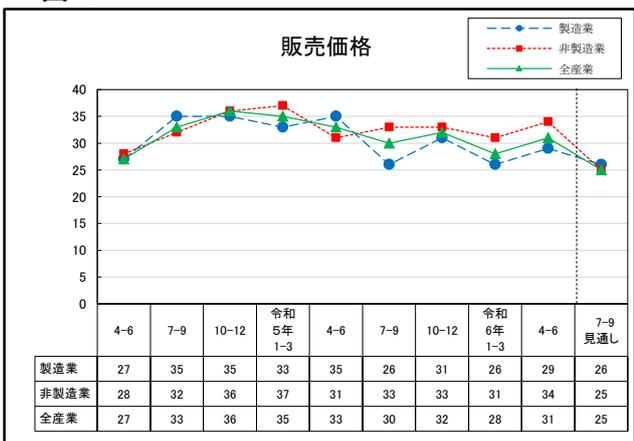


図 7

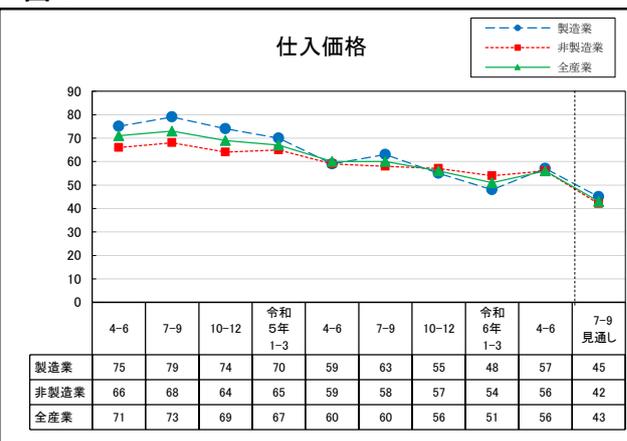


図 8

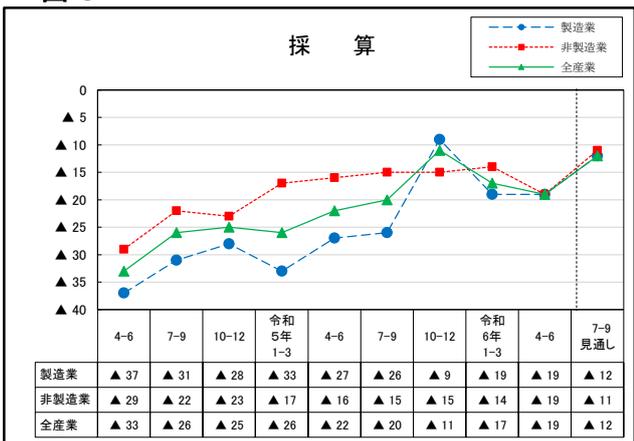


図 9

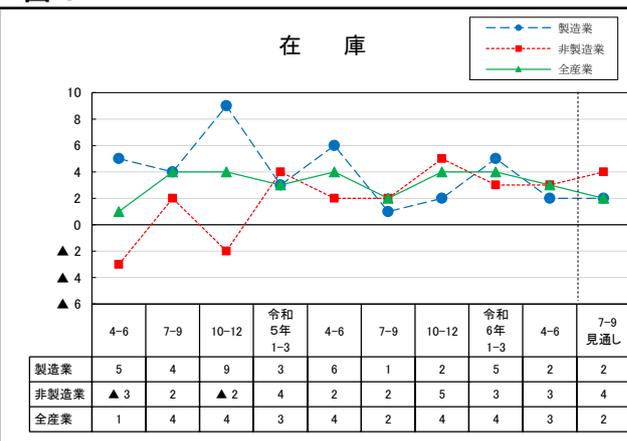


図 10

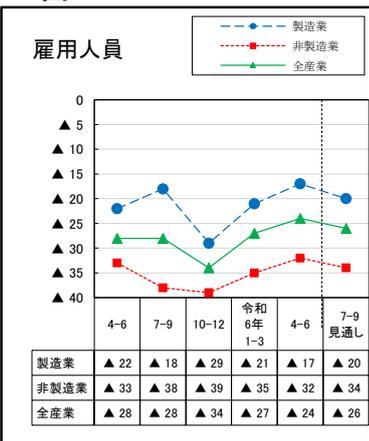


図 11

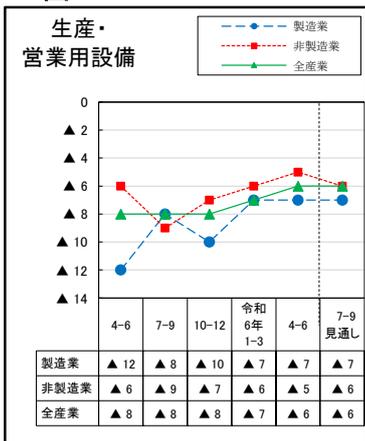
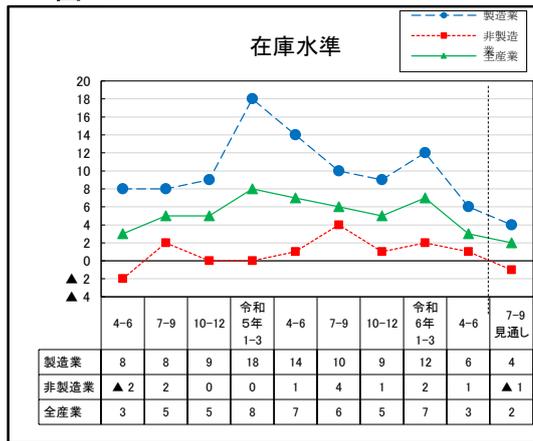
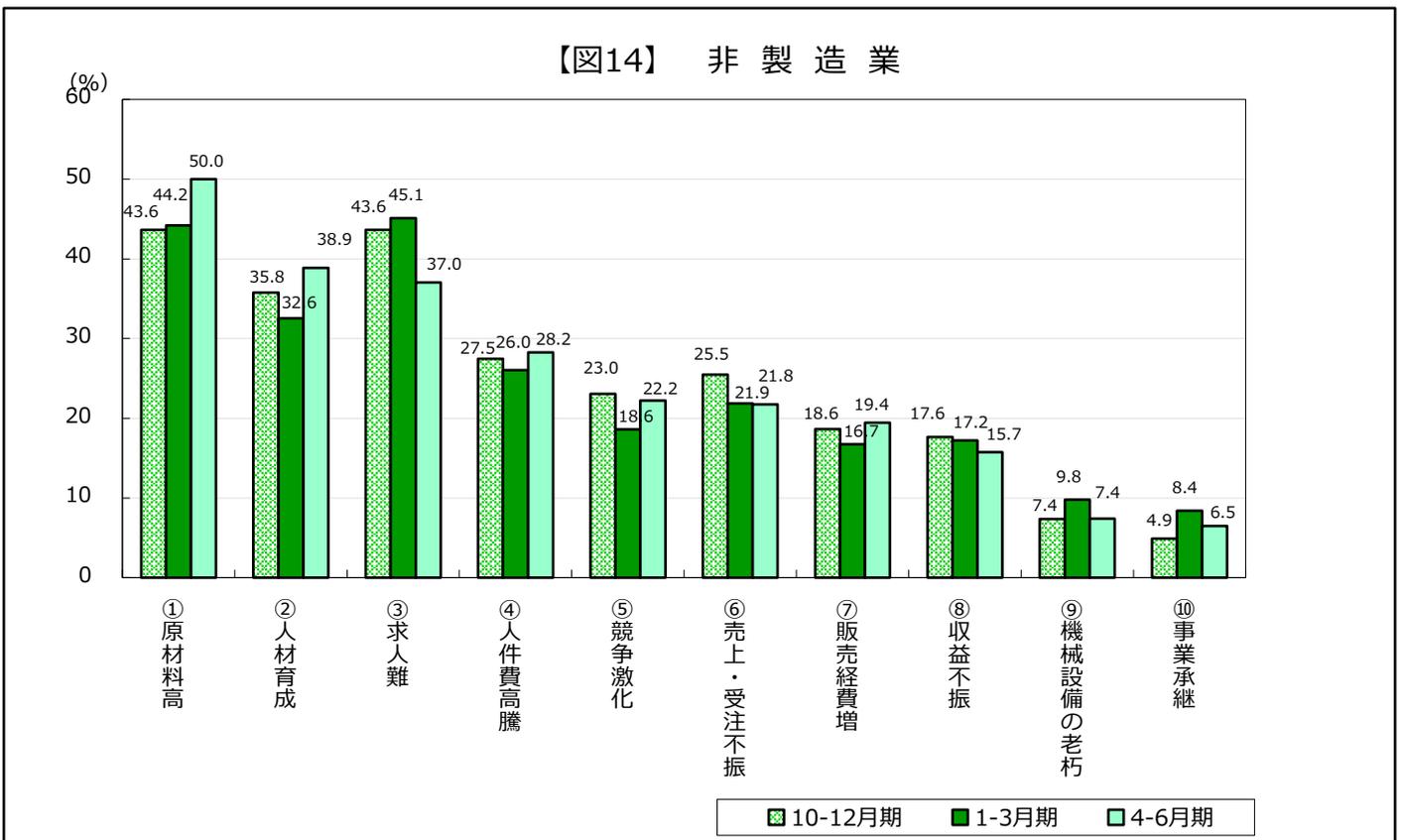
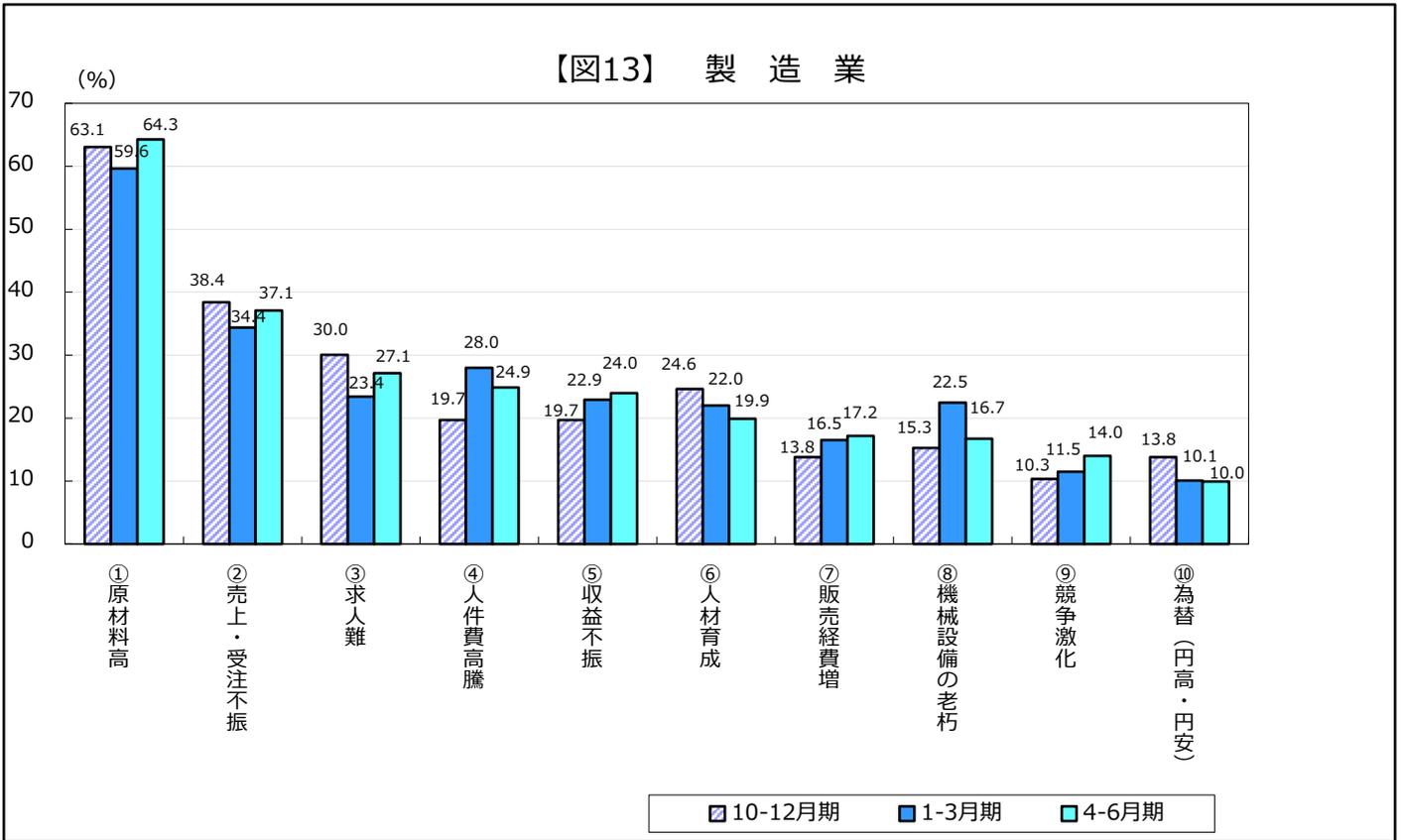


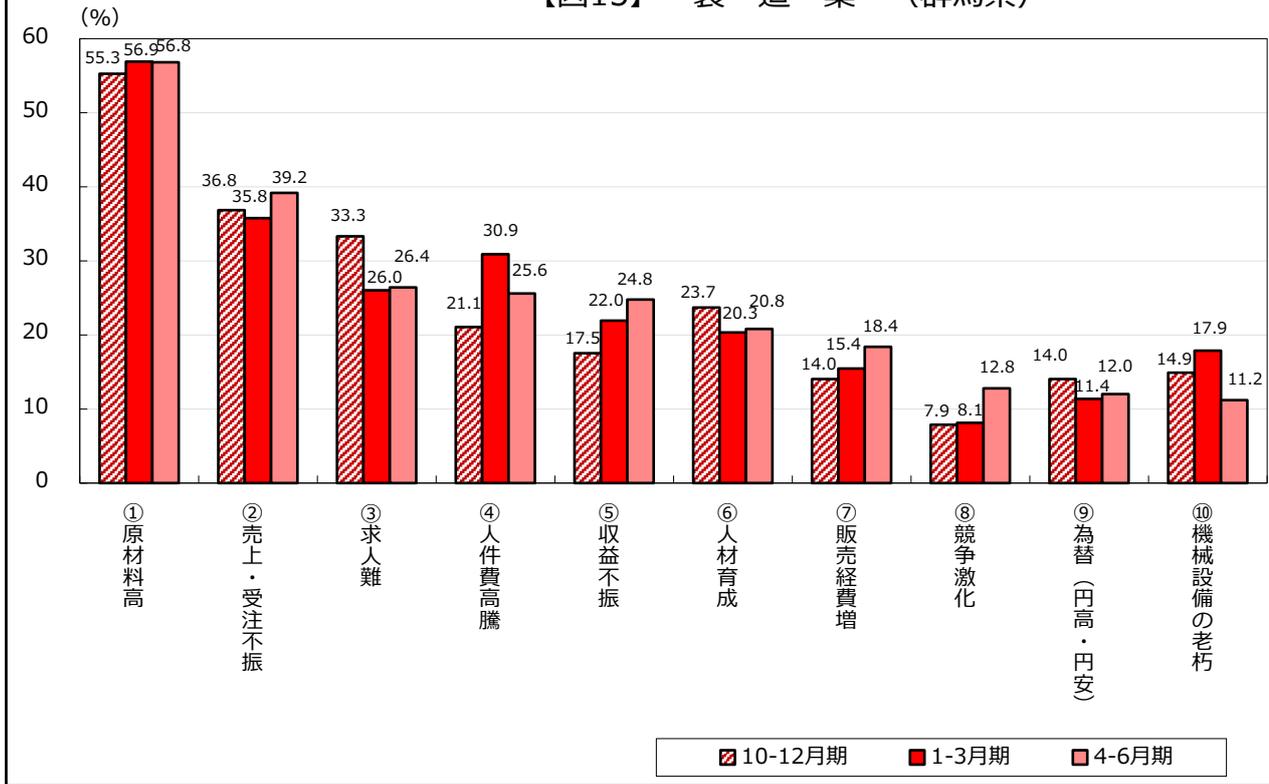
図 12



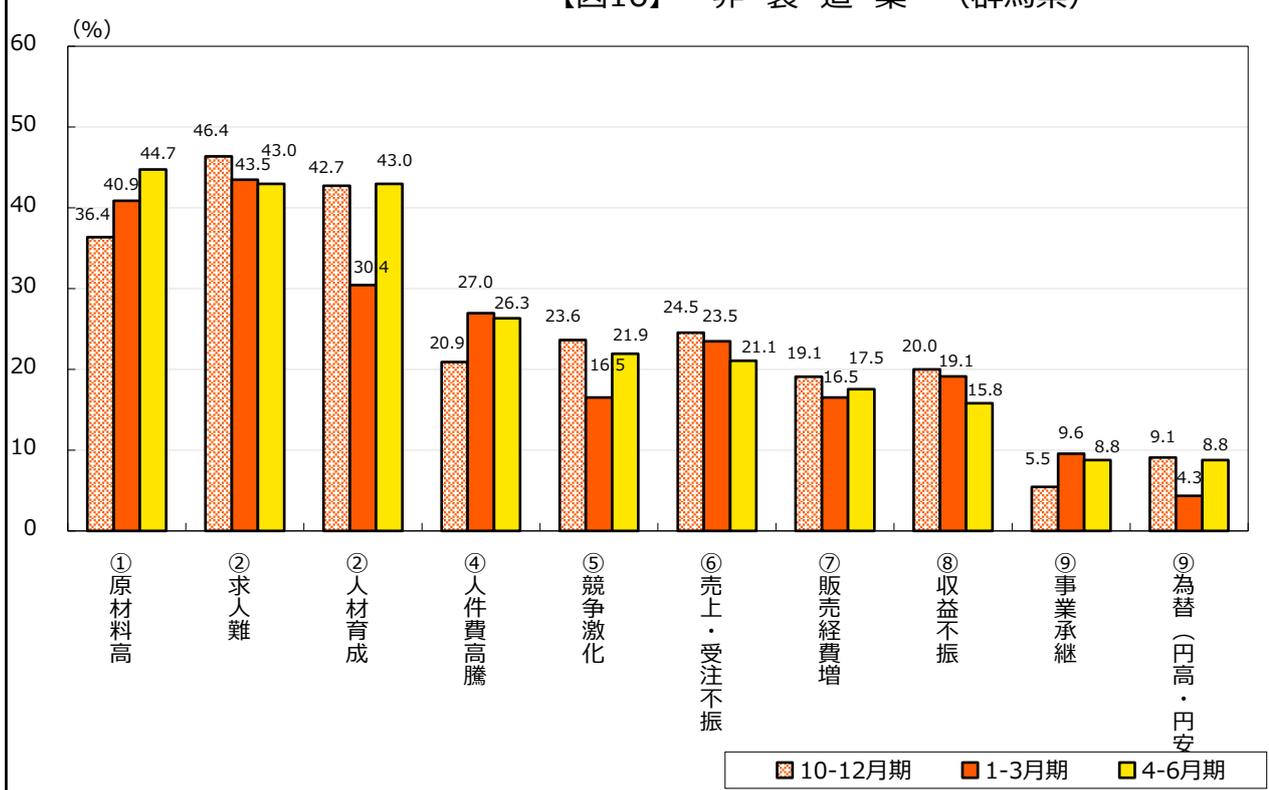


第197回企業経営動向調査 当面の経営上の課題（群馬県）

【図15】 製造業（群馬県）

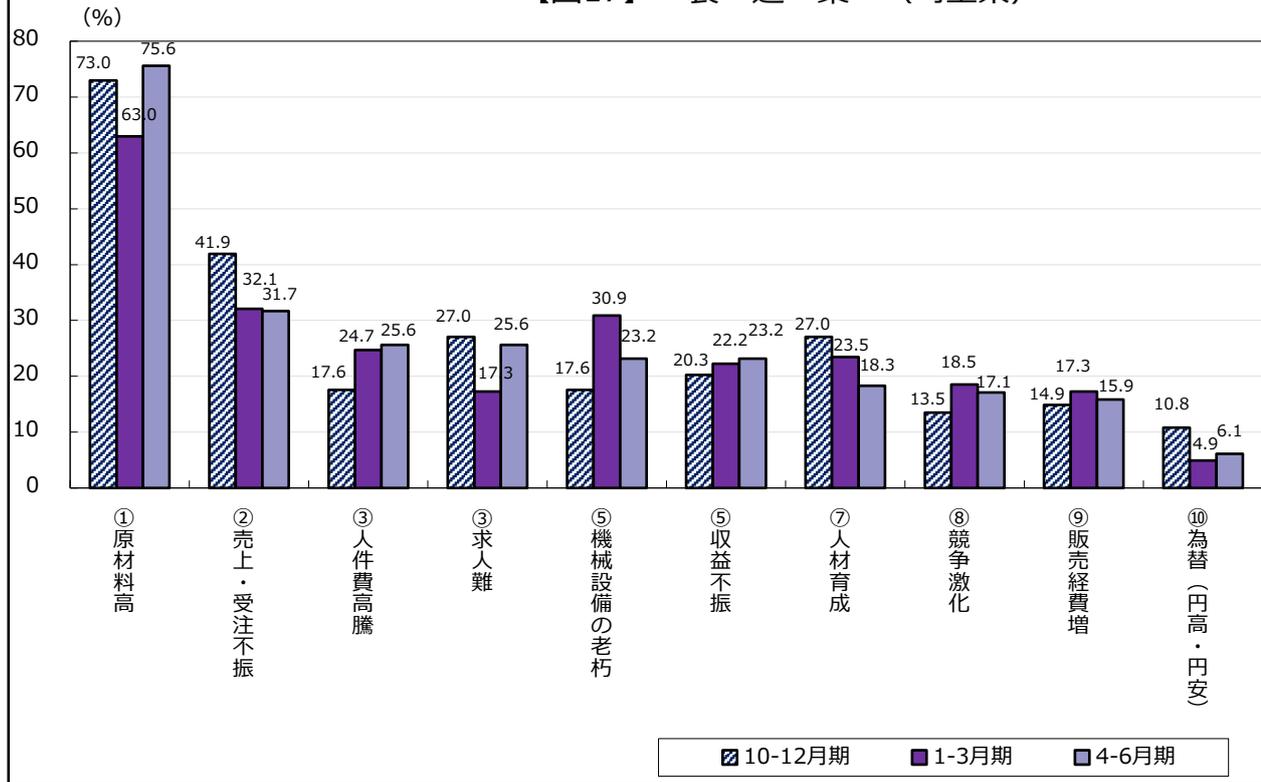


【図16】 非製造業（群馬県）

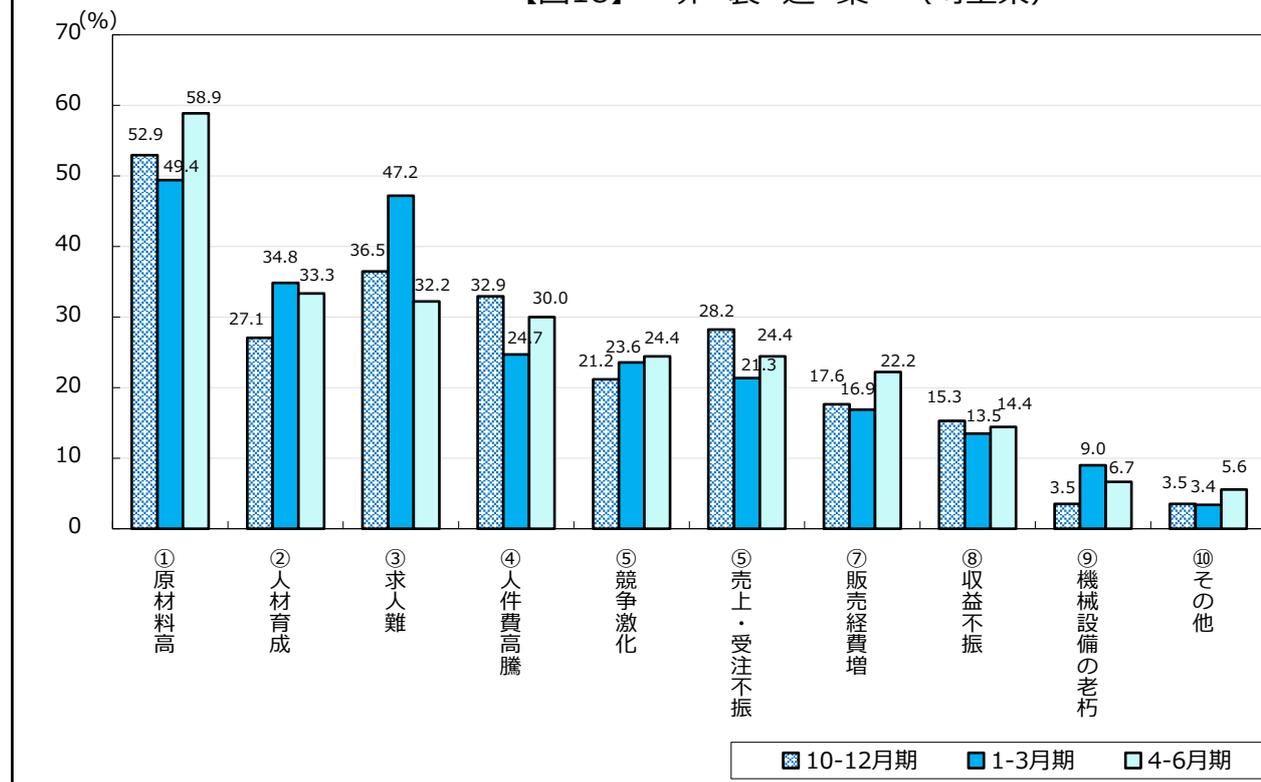


第197回企業経営動向調査 当面の経営上の課題（埼玉県）

【図17】 製造業（埼玉県）



【図18】 非製造業（埼玉県）

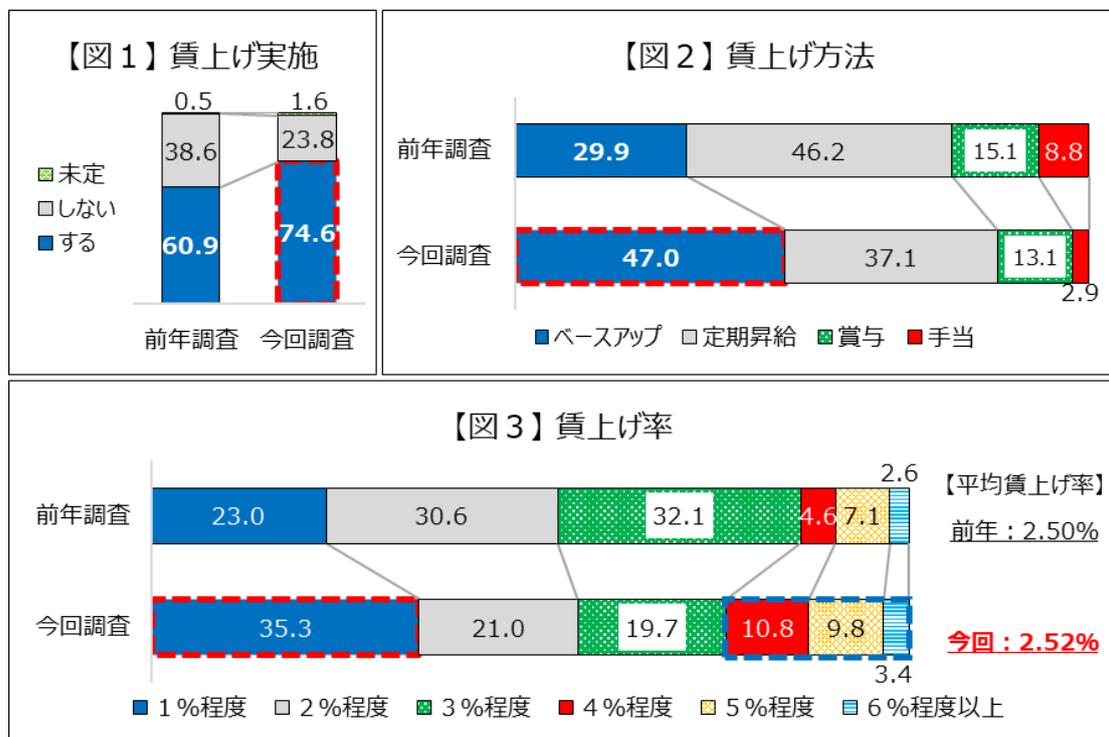


付帯調査_中小企業の賃上げの動向

付帯調査として「賃上げ」の動向を調査し、前年の調査結果との比較を行った。

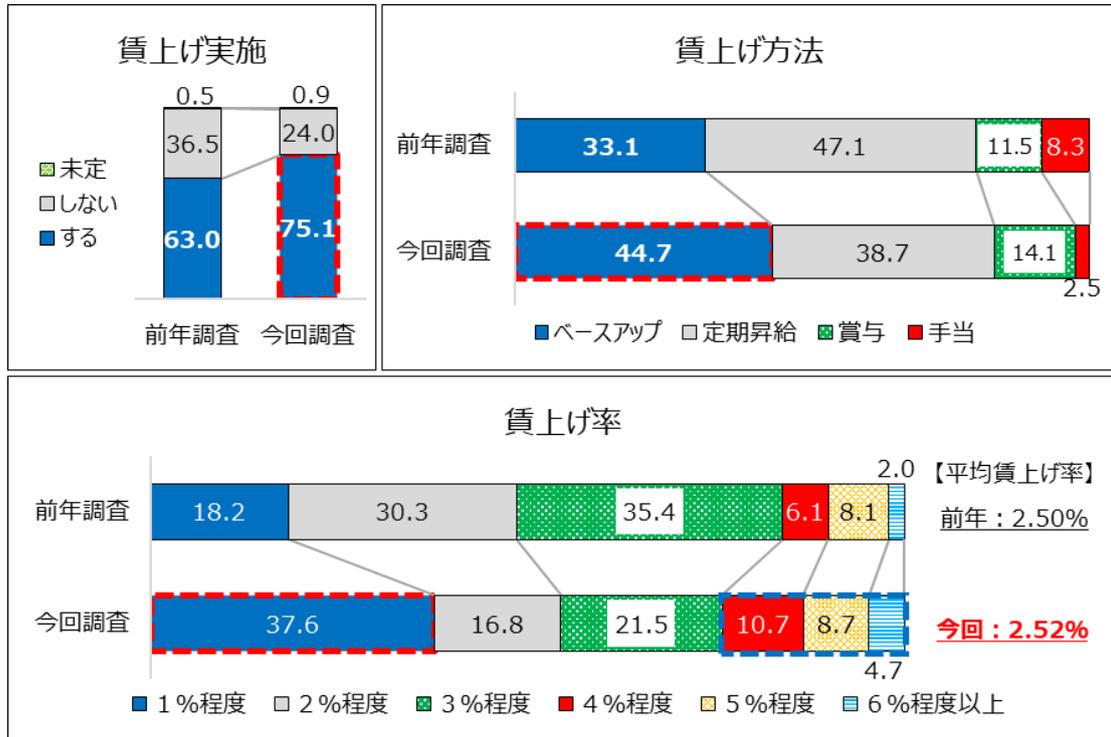
賃上げを実施する企業の割合は、前年調査と比較し 13.7 ポイント増加の 74.6%となった【図1】。賃上げ方法は、恒久的な賃上げにつながる「ベースアップ」を行う企業の割合が 17.1 ポイント増加の 47.0%となった【図2】。平均賃上げ率は 0.02 ポイント増加の 2.52%（程度）となった【図3】。

ベースアップを伴って賃上げを実施する企業が増加しており、前年より賃上げの機運が高まっている状況がうかがえる。一方で平均賃上げ率は伸びていない。内訳を見ると、平均的な「2～3%程度」の割合が低下し、平均より高い「4%程度」以上及び、平均より低い「1%程度」の割合が上昇していることから、物価上昇や業績の改善に伴い積極的に大幅な賃上げを行う企業と、業績の回復が進んでいないものの雇用を維持するため小幅な賃上げを行わざるを得ない企業とで、2極化が進んでいる状況がうかがえる結果となった。

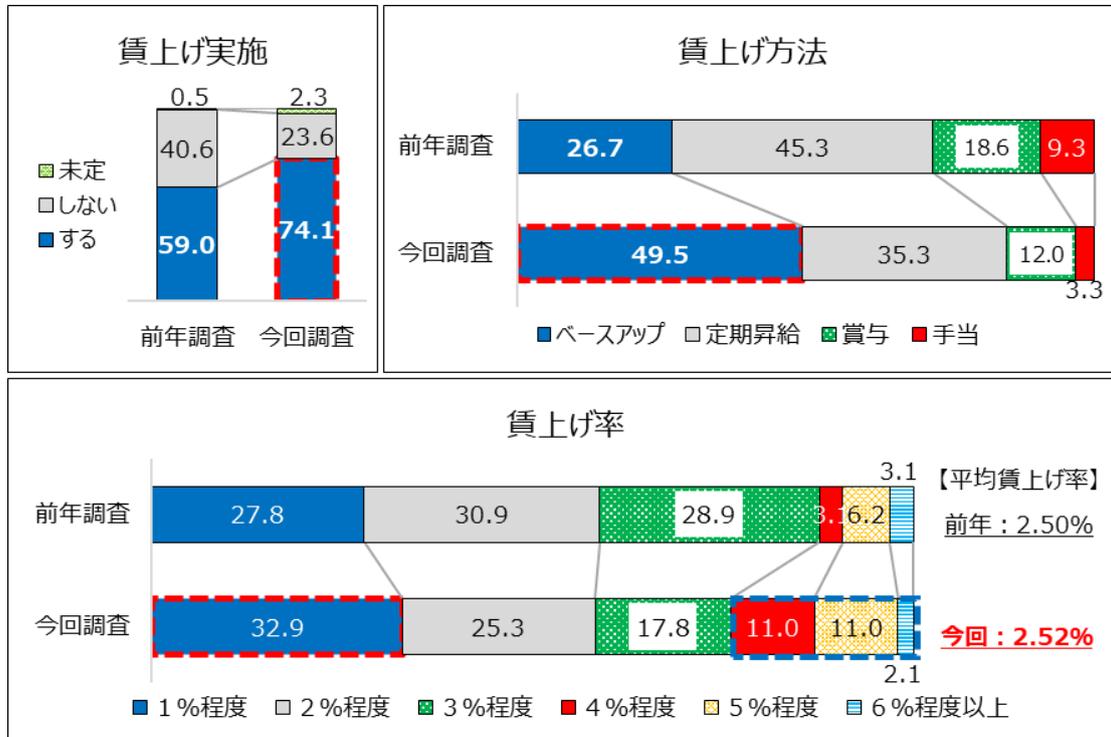


<参考>

【製造業】

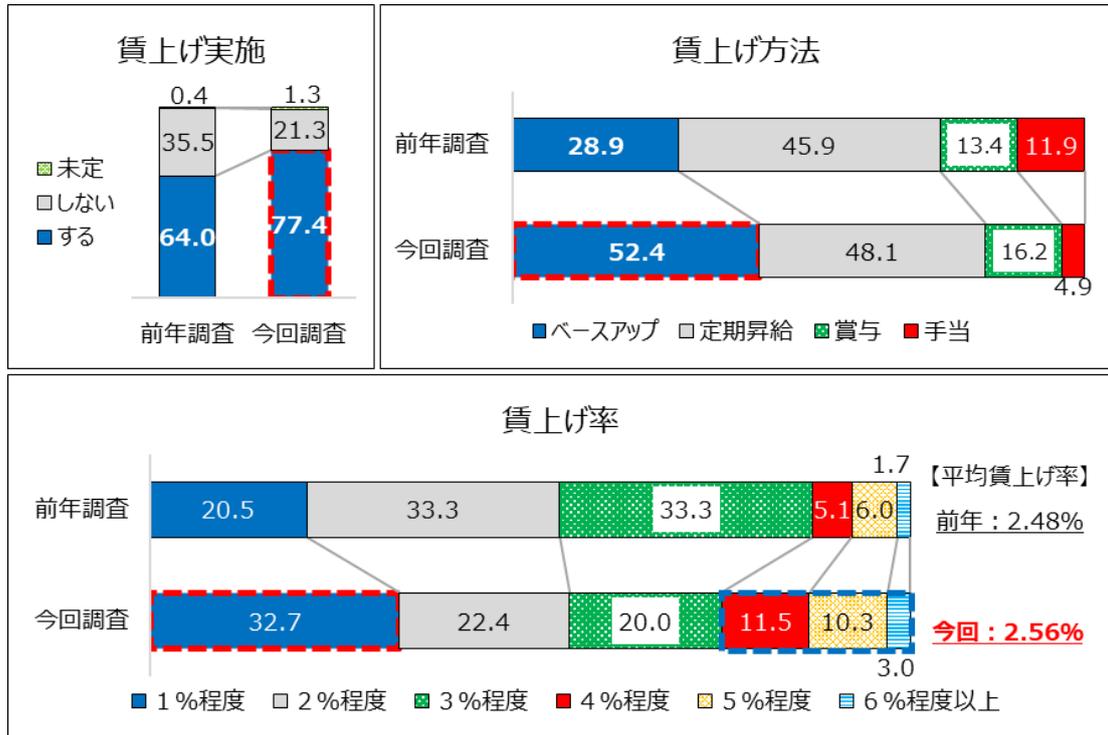


【非製造業】



<参考>

【群馬県】



【埼玉県】

